※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０８

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	文型数学演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	Super Quick 数学Ⅰ＋A（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・1 年次で使用した教科書を見直し、復習しておき、基本的な計算力、論理的な考察、想像する力を身につけておく。
・問題集を自分で解き、応用問題や入試問題に挑戦することで、発展的な意識のもとで学習に臨むこと。教員への積極的な質問もすること。

2　学習の到達目標

数学Ⅰ・Aでの学習内容について，基礎的な知識の定着を図り，さらに応用的な知識の習得と技能の習熟を目指す．また，知識を横断的に利用し，事象を数学的に考察し処理する能力を育成し，積極的に活用する態度を育てる

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	学習内容における基本的な概念，原理・法則，用語・記号などを理解し，基礎的な知識を身につけているかどうか。また、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに数学と人間の活動の関係について認識を深める。	数学的な活動を通して，学習内容における数学的な見方や考え方を身につけ，事象を数学的にとらえ，論理的に考えるとともに，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えているかどうか。	数学の良さを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数と式	展開・因数分解 実数 不等式	a:展開や因数分解の公式を用いて式を展開することができる。多項式を適切な形に整理したり置き換えを利用したりして因数分解の公式に帰着させることができる。平方根の意味・性質を理解し、式の計算ができる。不等式の性質、解法を理解し、1次不等式を解くことができる。 b:複雑な式の展開について、式の工夫の仕方を判断して式を展開することができる。身近な問題に対し、適切に変数を定め、1次不等式で表現できる。 c:展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする。不等式の性質から、1次不等式の解法を考察しようとする。	小テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期考査	授業観察 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 ﾜｰｸｼｰﾄ 振り返り

※令和４年度以降入学生用

	2 次 関 数	２次関数とグラフ 2次方程式と2次不等式	a:2 次関数のグラフがかけ、最大値、最小値を求めることができる。2 次方程式の解の個数と判別式の符号の関係を理解している。2 次関数のグラフと 2 次方程式の解の関係を理解している。 b:2 次関数が最大値または最小値を持つことを、グラフを使って理解しようとする。2 次関数のグラフ、2 次方程式、2 次不等式を関連付けて考えることができる。 c:一般形の 2 次関数 y ＝ x 2 ＋ b x ＋ c について、頂点の座標を考察しようとする。身近な問題を、2 次関数の最大・最小の考えを活用して解決しようとする。2 次関数のグラフと x 軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。	小テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ 課題 定期考査	授業観察 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ 課題 ﾜｰｸｼｰﾄ 振り返り

※令和４年度以降入学生用

2学期	図形と計量	三角比 正弦定理・余弦定理	a:三角比を使って、距離や高さを求めることができる。三角比の相互関係を用いて、三角比の１つの値から残り２つの三角比の値を求めることができる。正弦定理・余弦定理を用いて測量問題が解決できる。 b:直接測ることの出来ない距離などを求めようとし、具体的な事象を三角比の問題として見る事ができる。 c:三角比の相互関係を調べようとする。正弦定理・余弦定理の図形的意味を考察する。	小テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ 課題 定期考査	授業観察 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ 課題 ﾜｰｸｼｰﾄ 振り返り
	集合と命題	集合と論証	a:集合と命題に関する基本的な概念を理解している。命題や条件の意味を理解している。必要条件・十分条件の意味を理解している。 b:ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。 c:ド・モルガンの法則に関心を持ち、考察しようとする。			
	データの分析	データの整理 平均値・分散と標準偏差	a:データ分布表からデータの特徴を読み取ることができる。四分位数や四分位範囲の定義を理解し、それを求めることができる。相関係数の定義とその意味を理解し、定義に従ってそれを求めることができる。 b:箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。散布図、相関表を作成し、２つの変量の間の相関を考察することができる。 c:データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。	小テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ 課題 定期考査	授業観察 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ 課題 ﾜｰｸｼｰﾄ 振り返り

※令和４年度以降入学生用

3学期	場合の数と確率 数学と人間の活動 図形の性質	場合の数 確率 約数と倍数 1次不定方程式 三角形の性質 円の性質	a:日常的な事象に対して集合を考え、人数などを求めることができる。順列・組み合わせの用語・公式を理解し利用できる。確率の定義に基づき、事象の確率を求めることができる。 b:具体的な問題を通じて、どんな場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。 c:集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 a:約数・倍数の意味を理解し、自然数の素因数分解を求めることができる。公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。互除法の原理を理解し、互除法を用いて２数の最大公約数を求めることができる。１次不定方程式の特殊解を求め、すべての整数解を求められる。 b:問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。 c:互除法の原理の証明に興味関心を持つ。 a:三角形内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。外心･内心･重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。チェバ・メネラウスの定理を用いて、線分比を求めることができる。円周角の定理・円の接線・方べきの定理を利用することができる b:図形の証明を補助線を引いたり、論理的に考察することができる。 c:図形の証明方法に関心を持つ	小テスト 定期考査	ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 定期考査	授業観察 ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ課題 ﾜｰｸｼｰﾄ 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度